

はなもも通信

西濃学園保護者会会報 No.8 2020年6月

編集・発行：西濃学園保護者会 〒501-0804 岐阜県揖斐郡揖斐川町東横山1070番地

Tel (0585) 52-2181 E-mail seino1@octn.jp



スローガン：できる人ができる時にできる事を 子どもと学園の応援団になろう！

マスクの寄付 ありがとうございました

前号の「はなもも通信」で、手作りマスクや生地など材料の寄付の呼びかけをしました。マスクが全く店頭になく購入できない時期に、大量の使い捨てマスクを調達して学園に送ってくださった方をはじめ、6月の帰園日に手作りマスクや使い捨てマスクを届けてくださった方もいました。また、マスクに限らず、消毒液や医療用ゴム手袋の寄付もありました。

保護者の皆さんの善意に感謝いたします。ありがとうございました。
学園長や先生方にも大変喜んでいただけました。使い方は学園におまかせしますが、有効に使っていただけると思います。



※写真のマスクは一部です

署名集めのお願い

私学助成金増額に関する署名を今年度も保護者の方々にお願いしたいと思います。年齢の制限はなく（子どもも可）、岐阜県外在住の方の署名も可です。学園から署名用紙が配られますので、ご協力をお願いします。

締め切りは7月末日です。帰園日に
お子さんに持たせるか、学園に
郵送してください。
お問い合わせは、学園まで。



保護者会について

今年度も学園行事に併せて保護者会を開催するなど、保護者同士の交流の機会をできる限り設ける方針でいます。しかし、新型コロナウイルス感染対策の一環として、保護者会の開催を当面の間、見合わせることになりました。

学園の行事予定表に保護者会関係も記載されていますが、開催中止や変更などがあります。開催の折には、開催案内をお送りしますのでご確認いただきたいと思います。

一日も早く、子どもたちが通常の生活に戻り、保護者も気軽に集まれる日が来るといいですね。



学園の新型コロナ対策

6月からの新学期は、例年とは異なる形式で学園生活がスタートしました。学園から新型コロナウイルス感染対策関係の案内がありました。実際に始まった学園生活を見学させてもらい、中学校は平林校長、久瀬校は高橋さん（子どもたちは政勝さんと呼んでいます）にそれでお話を伺いました。臨時休校中に、寮生活を含めて学校再開に向けてどのように対応すべきか、藤橋の診療所医師に指導を仰ぎながらかなりの時間をかけて検討されたそうです。

子どもたちが学園でどう過ごしているのか気になる保護者の方も多いと思いますので、見学の様子をご紹介したいと思います。マスク着用、手洗い・消毒のほか、中学校と久瀬校は基本的に同じ対策を取っています。

環境整備

授業時間数を確保するために夏休みが短くなる、感染を防ぐためは数々の制約が必要になるということは、どの保護者の方も思っていたことだと思います。学園は、子どもたちに制約だけを求めるのではなく、少しでもストレスの軽減になればとの配慮から、色々な環境整備をしてくださいました。

本来夏休みの時期に学園（寮）で生活をする、談話室など利用禁止（6月上旬現在）になり自室で過ごす時間が長くなるため、各寮にエアコンの設置とWi-Fiが使えるようになりました。また、寮生は就寝時間に携帯電話を宿直室に預けていますが、宿直室への入室禁止に伴い、宿直室入口に職員手作りの棚を設置（ちゃんと充電もできる！）する工夫もしたそうです。※写真は中学校職員室の棚です。寮もこのような感じの棚のようです。



学校生活

学園バスには手の消毒をして乗車します（久瀬校を訪問した時に再現してもらいました）。教室の机はできるだけ離して距離を保つようにしてありました。

また、校内にはスローガンや注意喚起の掲示がされていました。中学校食堂前の廊下には、

足マークがあり、手洗い場の混雑や満席の時は距離を保って廊下で待つようになっています。

※教室の写真は、久瀬校3年生の教室です。

休み時間でリラックスモードでした。



給食は、6人掛けテーブルを2人掛けにして一方方向で食べます（写真上：中学校下：久瀬校）。いつもは各自で盛り付けをしていましたが、配膳は先生方が手袋をして行っています。調味料が必要な時やおかわりも先生が対応するため、子どもたちは自分の席にある食器しか触れないようになっています。

中学校は席数が減り、全生徒が一斉に座れないため、1・2年生と3年生が分かれ食べます。私語はほとんどなく黙々と食べ、食べ終わったら食器をカウンターに戻して食堂を出ます。

食堂は、給食時と生徒用冷蔵庫や自販機利用以外は入れないことになっており、電子レンジは利用不可、ポットのお湯も使えません（カップラーメンなど食べられない）。正直、かなり厳しい制約だと感じましたが、給食を作ってくれる方はシルバーさんで、高齢者は基礎疾患を持っている方が多く、感染した時のリスクが高いため万全を期した対策との話を伺い、納得しました。



寮生活

ぎんが寮（女子）とほくと寮（男子）の寮生の登下校は学園車の送迎から徒歩になりました。ただし、女子生徒が暗くなつてから下校する時は先生に送ってもらいます。

朝食は準備ができる人から食べます。夕食は中学生と高校生で分かれて食べます。給食と同じく、配膳などは先生方がしてくれます。

毎日行く温泉は大人数になるのを避けるため、5～6グループに分かれて行き、サウナの利用はしないで短時間で入浴を済ませます。

今は、みんなで宿直室に集うことや他の人の部屋に行くや触ることも禁止、電子レンジやお湯を使う夜食も食べることもできません。不自由な思いをしている寮生もいるだろうと、近々、先生方によるサプライズがあるそうですよ。寮生の保護者の方はぜひお子さんから話を聞いてみてください。

コロナ対策委員会

臨時休校中に教職員によるコロナ対策委員会を立ち上げ、この委員会や職員会議で様々な対応策を検討していただき今の学園生活があります。今後はさらに、教職員3人と各寮の代表6人（それぞれの寮から中学生1人 高校生1人選出）でのコロナ対策委員会も立ち上げるそうです。大人が一方的に決めた対策を子どもたちに従わせるだけでなく、子どもたちの意見を聞いて一緒になって対策や改善策などを考えていく方針は、西濃学園らしさを感じます。この委員会では、感染対策だけではなく、この状況の中で楽しめることなども話し合い、心の健康にも繋げたいとコロナ対策委員長の政勝さんから説明がありました。

見学を終えて

今回の見学で、コロナ感染対策だけでなく、制約生活を送ることになる子どもたちの心境まで考慮してくださいました。また、一日3食の配膳や温泉のグループを増やすことで連れて行く職員を増やすといけないなど先生方の負担が大きくなっていることも知りました。そのことに関しては、「この先ずっとではなく一時のことなので大丈夫です」と平林校長はおっしゃっていました。

新学期が始まったばかりの今、食堂の物や寮では自室以外のカーテンなどに触らないなど細かな制約があります。子どもたちには、念のためとか自分たちのためだけではなく、ご高齢の学園関係者の感染リスクも考慮した対策だと理解してほしいと思いました。今後は、状況を鑑みながら緩和できることはしていくそうです。「今」だけを見ていると辛くなりますが、前向きに考えて「終わりがある」と思えば乗り越えられそうですね。お忙しい中、快く見学の対応をしてくださった平林校長、政勝さん、ありがとうございました。

保護者会として、マスクなどの寄付の他にも何か学園に協力ができればと思いました。保護者の皆さん、何かアイデアがありましたら、ぜひご連絡ください。

